

令和 6 年 第 4 回大河原町教育委員会定例会会議録

1 招集日時 令和 6 年 4 月 24 日（水） 午後 2 時 00 分

2 招集場所 大河原町役場 2 階 第 1 会議室

3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、片倉亜寿香委員、
鈴木洋教育長

4 説明のため出席した者

櫻田尚 教育総務課長、齋修 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監

5 開 会 午後 2 時 00 分

6 令和 6 年第 3 回教育委員会定例会会議録の承認について

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。

丹羽委員、片倉委員 署名。

7 教育長報告

（1）一般事務報告

報告第 3 号 令和 6 年度町立小中学校児童生徒数について

教育総務課長より説明。

一 盃 森 委 員	特別支援学級が増えている。就学指導が上手くいって、新しい子ども達が入ってくるよう保護者の方に同意いただいているのかと思う。 教室の問題。スペース的に足りているのか？
櫻田教育総務課長	現状で何とか賄っているが、大変厳しい状況。児童クラブで利用している教室もある。
鈴木教育長	文科省の 3 5 人学級が、昨年度は 5 年生。今年度は 6 年生。児童数の減少からみて、学級数は減少していない状況なので、空き教室がない状況が続いている。
一 盃 森 委 員	今後の特別支援が必要な子が増えていくのか、減っていくのか難しい状況だが、不安定な状況で生活させることなく、それぞれに合うような形で、環境を整えてあげることが大事だと思う。ぜひ、町全体で考えていただければ良いと思う。
鈴木教育長	なるべく環境の良い所での学習をさせたいと考えている。

報告第4号 令和6年度要保護および準要保護児童生徒の認定について
教育総務課長より説明。

(2) 専決事務報告 なし

8 議 事

議案第17号 令和6年度大河原町教育重点施策について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第18号 大河原町社会教育委員の委嘱について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第19号 大河原町立学校評議員の委嘱について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第20号 大河原町立大河原小学校学校運営協議会委員の委嘱について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第21号 大河原町立金ヶ瀬小学校学校運営協議会委員の委嘱について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第22号 大河原町立大河原南小学校学校運営協議会委員の委嘱について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第23号 大河原町立大河原中学校学校運営協議会委員の委嘱について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

議案第24号 大河原町立金ヶ瀬中学校学校運営協議会委員の委嘱について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

9 その他

(1) 教育長報告

1 『教育改革を「改革」する』(寺田拓真)

「学校文化を変えられるのは、トップダウンの教育改革ではなく、ボトムアップの実践改善」等、教育の在り方について考えさせられる提言となっている。

2 『ことばの魔法』(林家たい平)

落語家のたい平氏は、師匠の落語を覚えるとき、集中して聞いて覚える。教師が授業を見るとときとすごく共通していると思う。メモのみ取って、子どもの姿が見ていない先生もいる。表情をみて学ぶのが大切。

3 『考える力を高める国語科の授業づくり』(東京学芸大)

この本のよさは、単元構成全体の指導を明らかにしていることである。参考にしたい学

習展開である。

4 「ICT化と対話的学び」(石井順治)

「対話的学び」が孤立した学びにならないように。タブレットを使用しても協働が大事。実践例もあるので各学校で参考にして取り組んでほしい。紙と電子と両方でやっていくのが大事。

5 「算数科におけるコンピュータの活用のあり方」(笠井健一)

各学校で、タブレットを効果的に使用してほしい。良さが出るように、躓きが軽減されるようにするのが必要である。

6 「協同的な学習における子どもの学びと育ち」(金田裕子)

協同的な学びの重要性を書かれている。体育や算数の実践とか、子どもの見方が素晴らしい。個別最適な学びと協同的な学びのこれからの中身について、今後、文科省より新しい学習指導要領として出てくる。8割は協働的な学び、2割が個別最適な学びと奈須先生も言っている。

7 「特別な支援は『分かる授業』にあり」(大西孝志)

四則混合の式で、なぜ、かけ算や割り算を先に計算するのか。約束だからではない。理由を特別支援学級の子にも分かるように教えなければならない。普通学級もそうだが、根拠や理由を考えさせることが重要。

8 不登校児童生徒等への対応

小学生の不登校が増加している。不登校の子に対する学習保障や居場所づくりが重要である。教員不足により対応できない。今後も国、県への働きかけが必要である。

9 雑感

○クレームや苦情が増えている。1人の教員に任せず、管理職が中心となるチームで対応願いたい。

○様々な意見があるなかで、みんなの意見を聴きながら、合意形成を図っていく力は、社会に出た時、必要なものである。『対話的学び』の学習が各教科、特別活動等でしっかり行われることが大事。

○仙台大学との連携。事業のねらいは、「運動やスポーツをすることが好き」な児童を増やすことにある。その結果として、体力・運動能力の伸長がある。

○学校図書室へ漫画を置いてほしい意見があった。「日本の歴史」など漫画で構成されている本のよさは感じており、ぜひ子供に読ませたい漫画も置いていただきたい。

10 学校経営等

11 人事関係日程

12 教職員の事故防止について

学校経営、人事関係日程、教職員の事故防止について説明。

13 教職員に対する校長の指導について

校長はとくに、パワハラ、セクハラの言動に気を付けてほしい。

14 その他

部活動地域移行の外部指導員委嘱状交付式等について資料により説明。

一 盃 森 委 員	不登校の話。令和 6 年 2 月現在の管内の状況で、小学生 285 人、中学生 329 人で合計 614 人ですが、このうち、白石、角田、柴田、大河原で、全体に対する割合が多くなっているのか。他の 5 町の割合は少ない認識で良いか。
鈴 木 教 育 長	他の 5 町について、児童生徒数が少ないのもあるが、その通りである。
一 盃 森 委 員	地域移行の話。先生方の兼職兼業の外部指導員の方が 11 名いる。大中の先生は大中の部活を指導すると思っていたが、そうではない。金中も含めて、大河原地域全体として指導していく。素晴らしい。先生方も理解されたうえで臨んでいるのだと思った。
丹 羽 委 員	先生方の謝金はどのようになるのか。
鈴 木 教 育 長	兼職兼業の謝金は 1 時間あたり 1,600 円で 1 日 3 時間の活動。
一 盃 森 委 員	クレームが多い。学校で先生方の話を伺うと、そのようなつもりで言ったのではない言葉が、クレームと受け止めをされる。とても苦勞されている。 「対話的学び」もそうだが、結局、言葉が大事。人と人との繋がりを作っていくために考えるような世の中になってきたと思う。 石井先生の P145。「そうなれば、個人化が急激に進み、多くの人が孤立感に悩ませられることになるかもしれません。私たちの人格面や、論理面に影響する。それでは、本末転倒です。」とあるが、例えば SNS など、I C T 化が生活にすっかり入っている。このような事を踏まえ、新しい授業づくりをしていかなければならない。 文章の中で、評価の事に触れてはいないが、まとめのテスト。正答率などはその事だけであって、途中のプロセスが大事。対話の中で学びを深めていく。指導と評価の一体化が大事。
舟 山 委 員	同じく石井先生の話。コンピュータを使用した授業の素晴らしさ。気に掛かったのは、確かに数学など便利だが、途中の過程が大事。低学年の内は、実

	体験などが大事。先生方もコンピュータの素晴らしさを感じつつ、マイナス面も意識して使用してほしい。
一 盃 森 委 員	数字と数量など、途中経過が分からないと理解できない。先生方も意識しないで指導しているところがある。線分図などを使用させると良い。
丹 羽 委 員	寺田先生の話。「子どもたちを救うことができるのは、どんな法令でも、どんなシステムでも、どんなマニュアルでもなく、結局は、対話なのではないか。」とある。先生が子どもに寄り添うことが大事。教育に大事なのは対話だと思う。
片 倉 委 員	協同的な学びの話。誰かができなくて、周りが応援してできた時の達成感。学び合いや話し合いも良いと思う。信頼できる関係を築けるようにしてほしいと思う。
丹 羽 委 員	雑感の話。各学校の図書購入増額したとあるが、活字が苦手な子。漫画本の方が覚えやすい。学習と繋げた漫画を増やした方が良いと思う。
	手塚治虫さんの漫画から学びを得た。図書の先生方も、目を配っていただき、用意していただければと思う。

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

教育委員会と学校の意見交換会について説明。

令和6年度行事予定について説明。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和6年5月17日（金）午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午後4時00分

令和6年5月17日

署名委員

署名委員